第１１９回大江戸探索会（草加宿界隈）

日光街道の千住宿から２里８町の草加宿界隈を散策した。開催日が三連休中日の 11 月 23 日であったせいか、参加者はいつもより少ない 13 名。東武スカイツリーラインの一つ手前、谷塚駅に集合し、駅近で富士山を祀り江戸時代より富士行で知られる瀬崎浅間神社に向かった。裏手の広い境内奥、富士塚で集合写真（写真→）を撮った。電車で草加駅へ移動、草加せんべいを焼く「おせんさん」の像に迎えられ、観光案内所で草加まち歩きマップを入手。旧日光街道へ出ると明治期の町屋建築物である藤城家があり、二階建て店舗、後方母屋に土蔵が組み込まれ、国登録有形文化財。その先、大川本陣跡の石碑の向かい側には鉄枠で保護された背の高い道路元標あり。千住町へ弐里拾七町五拾三間三尺、越ケ谷町へ壹里三拾三町三拾間三尺とある。（写真→）その近くの草加小学校旧西校舎は草加市立歴史民俗資料館で（←写真）、大正 15 年当時、埼玉県初の鉄筋コンクリート作りで国登録有形文化財。

旧日光街道をさらに進むと国指定名勝の奥のほそ道の風景地「草加松原」である綾瀬川の松並木と合流する。同交差点付近に対峙して松尾芭蕉像（→写真）とその弟子の河合曽良像がお出迎えしている。近年は松の捕植や保護手当も進み、川沿いに見事な松並木と幅広の遊歩道が約 1.5 ㎞も続いている。途中、奥の細道の研究で知られるドナルドキーン揮毫の記念碑があった。（写真↓）

綾瀬川は元々荒川と利根川の本流で度々流路が変わり、草加付近は沼地で草加付近を街道は大きく迂回していた。江戸時代にかけ、上流での堤造成、開削での流路変更、沼の埋め立て、新道開発と進み、千住宿と越ケ谷宿を最短で結ぶ草加宿が新設された。新田開発に加え、水路の直線化と東京湾の干満差利用で水運も発達し、草加宿は大きく発展した。

隣の独協大学前駅で解散、その後、有志にて反省会、喉を潤した。（飛田悦男・記）